

I. 糖尿病療養指導士の役割・機能



2020年度
山形県糖尿病療養指導士会
教育部会

日本糖尿病療養指導士とは Certified Diabetes Educator of Japan:CDEJ

- 糖尿病とその療養指導全般に関する正しい知識を有し、医師の指示の下で患者に熟練した療養指導を行うことのできる医療従事者に対し、日本糖尿病療養指導士認定機構が与える資格である。
- 2002年2月に日本糖尿病学会、日本糖尿病教育・看護学会、日本病態栄養学会が母体となって、日本糖尿病療養指導士認定機構が任意団体として発足し、2012年8月に一般社団法人となった。



糖尿病療養指導ガイドブック2020 P2-3

地域糖尿病療養指導士とは Local Certified Diabetes Educators:LCDE

- 糖尿病患者教育の正しい知識および技術の充実、向上を図り、地域医療に貢献することを目的として、各地域の実情に即した体制のもとで認定される糖尿病療養指導士の資格である。
- 1996年に北九州地区に誕生した活動は、筑後・佐賀糖尿病療養認定制度として発足し、福岡県、大分県へと広がった。
- 2018年12月現在、全国で53団体が活動している。
- 主な活動は、糖尿病教育に携わるコメディカルのレベルアップと質の均てん化を図り、地域の糖尿病患者のQOLの向上を最終目標としている。

糖尿病療養指導ガイドブック2020 P5-6

山形県糖尿病療養指導士とは Certified Diabetes Educator of Yamagata:CDE-Yamagata

- 糖尿病について幅広い専門知識をもち、患者に糖尿病治療でもっとも重要な自己管理を指導することのできる山形県内の医療・介護スタッフを認定する。
- 山形県民に糖尿病の正しい知識を普及・啓発することで、県民の健康増進を図ることを目的とする。
- 2018年に山形県内の糖尿病専門診療に関わる医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士等によって、山形糖尿病療養指導士認定委員会が発足し、2020年に山形県糖尿病療養指導士会と名称を変更した。



山形県糖尿病療養指導士会 公式ホームページ

糖尿病療養指導士に求められる資質と役割

- 個々の患者の生活を理解し評価する。
- 患者の自己管理能力と知識、理解度、遵守度、その必要性の再認識などを評価する。
- 糖尿病は多様であり、病態と生活環境は個々それぞれに異なる。患者が自己管理の質を維持し継続するためには、認識を変えることによる行動修正が望まれる。
- 一方で、患者が現実を受容し、その条件のもとで自己管理を実行する心のケアを重視しなければならない。
- 療養指導の最終目標は患者の自己管理能力を引き出し、それを実行できるようにサポートしていくことである。まずは、患者と医療者との信頼関係を築くことが重要である。

糖尿病療養指導ガイドブック2020 P5

療養指導の基本

- 糖尿病医療の進歩
- 継続治療への心理的支援、治療技術の指導が多様化
- 指導の評価法も各職種のもつ範囲が広がり、専門性も深くなった



密接な連携と専門性を活かした**チームアプローチ**が必要

施設内での意思統一が大切

- わが国の医療法に沿ったアプローチであること。すべて医師の指示のもとに、各医療職の種類別の業務範囲で療養指導をする。

糖尿病療養指導ガイドブック2020 P7